

茨城県

幼稚園園児選抜について

関 博

近來幼児教育に対する世の関心と理解が深まった結果、年毎に幼稚園入園希望児の増加を見、公私立幼稚園がその数を増しつつあることは洵によろこばしいことである。

茨城県はこの方面の教育は余り振わないが水戸市には旧市内六小学校全部に附屬幼稚園があり、一年保育ではあるが一〇〇名乃至一八〇名の園児を収容している。そこでどの様な保育が行われているかはしばらくおき、園児選抜の状況について記して見る。

市内六園大同小異であるので私の園の実際について云うと、昭和二十八年度は八〇名（二組編成）の採用に対し応募幼児が一六八名あったので、第一次選考で一五〇名を選び第二次選考でその中から八〇名を選んで入園を許可した。

第一次選考では、

父兄の面接で、家庭の状況、入園の理由、

志望の確否、幼児の性格、園に対する希望等を調査し、次に

幼児の個人面接で

形（丸、四角、三角、長四角の名称）

数（一から一〇までの数觀念）

色彩（三原色の名称）

大小（形の大小と数量の多少）

言語（氏名、年令等）

常識（絵本を見て話す）

運動能力（肢体不自由を見る程度）

を調査、

身体検査で、

耳鼻、咽喉、眼疾、皮膚、栄養、其の他の

疾病、養育等の検査をした。

以上を綜合して伝染性疾患、肢体不自由、

言語障害、極端な性癖、経済的負担の難易、

入園に対する熱意等を判定し一八名をふるい

落した。

第二次選考では公平な選抜について種々考

えて見たが、同一条件では抽選以外に良い方

法はないとの結論に達し、抽選によって八〇

名を選んだ。その結果を反省して見ると、公

平と云えば公平であるが、落ちた者の中に入

園の熱意の強い者があり、入った者に比較的

園に対する意識の弱いものがあるなどの矛盾も生じてしまった。

幸い次年度からは園舎の増築によって二三

〇名の採用が可能になり、第一次選考だけで

応募者の大部分を入園させることが出来る様

になった。

しかし義務教育でない幼稚園には選抜の問

題はどこまでも残るので、設備の足りぬ限り

希望者全部を入れることが出来ない。又第一

次選考で条件の同じ者を揃える為の父兄並に

幼児の面接であるがこれの正確度が疑わし

い。家庭で準備でもしなかつたら、知って居

てもテストに答えられなかつたり、何かの都

合でいやになってただをこねたり、医師に対

する恐怖心で身体検査に応じられなかつたり

することもあり得るので、そんな者を簡単に

外すことがよいかどうか。考え様によっては

その様な社会性の足りぬ子供程、わからぬ子

供程、負担の出来ぬ家庭の子供程、却って教

育してやるべきでもある。三十年度について

も約三〇名を外したが、何が後味のスッキリ

しないものがある。

（水戸市立三ノ丸幼稚園）